

平成27年青森県花き生産状況

農産園芸課

1 概況

平成27年の本県花きの生産状況は、作付面積が123ヘクタール（前年比95%）で、前年に比べ7ヘクタールの減少、生産数量が2,657万本・鉢（同93%）で、前年に比べ約193万本・鉢の減少、産出額が19億1,700万円（同98%）で、前年に比べ約4,500万円の減少となった。

これらの要因として、生産者の高齢化や景気回復の遅れ、輸入花の増加による価格の低迷などにより、栽培農家数が927戸（同93%）と、前年に比べ73戸減少したことが影響した。

表1 生産状況

（単位：ha、千本・鉢、百万円、戸、%）

項目	作付面積	生産数量	産出額	栽培戸数
27年	123	26,566	1,917	927
26年	130	28,494	1,962	1,000
27年/26年	95	93	98	93

【農産園芸課調べ】

2 作付面積

(1) 切花類

切花類の作付面積は約95ヘクタール（前年比95%）で、前年より約6ヘクタール減少した。

品目別では、キク類（大中輪ギク、小ギク、スプレーギク）が約21ヘクタールと最も多く、全体の17パーセントを占めている。次いで、サクラ（枝物）が約12ヘクタール、トルコギキョウ約8ヘクタール、ヒマワリ約4ヘクタール、バラ約3ヘクタールの順となっている。

多くの品目で減少しており、特にグラジオラスは、大規模生産者が作付けを辞めたことにより、約0.9ヘクタールとなり前年に比べて42パーセント減少した。

(2) 鉢もの類

鉢もの類の作付面積は約11ヘクタール（同95%）で、前年より約0.6ヘクタール減少した。

品目別では、シクラメンが約2ヘクタールで最も多く、次いでポットローズ、サクラソウがそれぞれ約1ヘクタールとなっている。

(3) 苗ものの類

苗ものの類の作付面積は約6ヘクタール(同105%)となり、直売所での需要増を背景に前年より約0.3ヘクタール増加した。

表2 作付面積

(単位：a, %)

区別	年次				27/26	
	27年	割合	26年	割合		
切花類	9,458	77	10,050	77	94	
主要品目	キク類	2,128	17	2,525	19	84
	サクラ(枝物)	1,209	10	1,244	10	97
	トルコギキョウ	844	7	881	7	96
	ヒマワリ	365	3	365	3	100
	バラ	270	2	339	3	80
	リンドウ	244	2	266	2	92
	アルストロメリア	175	1	179	1	98
	ユリ類	147	1	154	1	95
	ストック	146	1	162	1	90
	宿根カスミソウ	139	1	152	1	91
	アスター	134	1	188	1	71
	カンパニュラ	120	1	156	1	77
	カーネーション	111	1	110	1	101
	グラジオラス	87	1	149	1	58
	デルフィニウム	83	1	94	1	89
鉢ものの類	1,118	9	1,174	9	95	
主要品目	シクラメン	200	2	200	2	100
	ポットローズ	131	1	109	1	120
	サクラソウ	99	1	92	1	107
苗ものの類	579	5	553	4	105	
花木類	598	5	651	5	92	
芝類	400	3	400	3	100	
球根類	153	1	140	1	109	
合計	12,306	100	12,969	100	95	

【農産園芸課調べ】

重要品目及び地域振興品目

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

3 産出額

(1) 切花類

切花類の産出額は10億3,600万円(前年比97%)で、前年より2,800万円減少した。

品目別では、キク類(大中輪ギク、小ギク、スプレーギク)が3億2,100万円(同91%)と最も多く全体の17パーセントを占めた。次いで、トルコギキョウが1億2,000万円(同82%)、バラが1億100万円(同75%)、アルストロメリアが9,500万円(同122%)、カンパニュラが2,900万円(同118%)、ヒマワリが2,900万円(同131%)の順となり、キク類、トルコギキョウ、バラは減少する中、カンパニュラ、ヒマワリ、アルストロメリアは好調な市場価格を反映し

て増加している。

(2) 鉢ものの類

鉢ものの類の産出額は5億6,500万円(同101%)と前年並となった。

品目別では、ポットローズが1億9,100万円と最も多く、次いでシクラメンが6,300万円、サクラソウが3,700万円となった。

(3) 苗ものの類

苗ものの類の産出額は1億6,100万円(同88%)となり、大規模生産者が品目を転換したことにより減少した。

表3 産出額

(単位：百万円，%)

区別	年次				27/26	
	27年	割合	26年	割合		
切花類	1,036	54	1,064	54	97	
主要品目	キク類	321	17	352	18	91
	トルコギキョウ	120	6	147	7	82
	バラ	101	5	135	7	75
	アルストロメリア	95	5	78	6	122
	カンパニュラ	29	2	25	1	118
	ヒマワリ	29	2	23	1	131
	ユリ類	27	1	28	1	96
	宿根カスミソウ	21	1	19	1	107
	チューリップ	12	1	12	1	100
	ストック	12	1	12	1	101
	アスター	11	1	16	1	70
	カーネーション	11	1	10	0	111
	リンドウ	9	0.4	10	0	89
	デルフィニウム	8	0.4	7	0.4	106
	サクラ	6	0.3	5	0.3	106
グラジオラス	5	0.3	7	0.4	72	
鉢ものの類	565	29	558	28	101	
主要品目	ポットローズ	191	10	158	8	121
	シクラメン	63	3	60	3	105
	サクラソウ	37	2	36	2	103
苗ものの類	161	8	184	9	88	
花木類	97	5	97	5	100	
芝類	55	3	55	3	100	
球根類	3	0.2	2	0.1	129	
合計	1,917	100	1,962	100	98	

【農産園芸課調べ】

：重要品目及び地域振興品目

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

4 地域別の生産状況

(1) 作付面積

平成27年の作付面積は、すべての地域で前年と比較し減少している。

地域別では、三八地域が約41ヘクタールで全体の33パーセントを占め、次いで中南地域が約36ヘクタール、東青地域が約22ヘクタール、西北地域が約18ヘクタール、上北地域が約6ヘクタール、下北地域が43アールとなった。

(2) 産出額

平成27年の産出額は、三八地域が6億3,400万円と全体の33パーセントを占め最も多く、次いで中南地域が5億7,100万円、上北地域が3億5,200万円、西北地域が3億300万円となった。

なお、上北地域は、ポットローズ等の鉢ものの生産により作付面積は約6ヘクタールと少ないものの、産出額は多い。

表4 地域別生産状況

(単位:a、%、百万円)

地域	作付面積					産出額			主な品目
	27年	割合	26年	割合	27/26	27年	26年	27/26	
東青	2,243	18	2,290	18	98	※ 54	※ 59	92	キク、トルコギキョウ、ヒマワリ、カーネーション、アスター
中南	3,615	29	3,778	29	96	571	600	95	キク、アルストロメリア、トルコギキョウ、ヒマワリ、サクラ、ストック
三八	4,057	33	4,234	33	96	634	656	97	キク、カンパニュラ、トルコギキョウ、花木類、鉢もの類
西北	1,787	15	1,836	14	97	303	287	106	キク、トルコギキョウ、バラ、宿根カスミソウ、ヒマワリ、デルフィニウム
上北	562	5	783	6	72	352	356	99	鉢もの類、バラ、グラジオラス、リンドウ、カーネーション
下北	43	0.4	48	0.4	90	2	4	60	キク、トルコギキョウ
合計	12,306	100	12,969	100	95	1,917	1,962	98	

【農産園芸課調べ】

(注)・東青地域は、出荷・販売状況を把握できないため産出額に把握できた分のみを記載している。

・数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

5 バケット出荷の状況

切花の鮮度保持のために近年主流となりつつあるバケット出荷は、県内のJA花き部会を中心に実施されており、年々増加している。

品目別では、カンパニュラでは、バケットによる出荷量が約50万本とほぼ全量で行われているほか、トルコギキョウは約19万本で16パーセント、バラは約15万本で14パーセント、カーネーションは約12万本で50パーセントなどとなっている。

表5 切花類のバケット出荷状況

(単位：a、千本、%)

品 目	施設・露地栽培計			
	作付面積	生産数量	バケット出荷量	バケット出荷率
カンパニュラ	120	502	501	99.8
トルコギキョウ	844	1,139	187	16.4
バ ラ	270	1,122	154	13.7
カーネーション	111	236	118	50.0
ヒマワリ	365	666	85	12.8
デルフィニウム	83	77	26	33.8
その他	405	636	87	13.7
合 計	2,198	4,378	1,158	26.5

【農産園芸課調べ】

6 JAの花き生産の状況（全農あおもり取扱状況）

(1) 花き取扱状況

JA全農あおもりの花き取扱量は年々増加しており、平成27年度における県内のJAの取扱数量は約895万本（前年比103%）となり、前年より27万本の増加となった。

また販売額は6億6,300万円（同112%）となった。

(2) 販売額割合

JA全農あおもりの県内花き産出額に占める販売額のシェアは35パーセントとなり、前年より5ポイント増加した。

表6 JA全農あおもりの取扱状況

(単位：千本、百万円、円、%)

項目 年次	農協数	数量	販売額	単価	シェア
27年	10	8,953	663	74	35
26年	10	8,687	592	68	30
27年/26年		103	112	109	115

【JA全農あおもり調べ】

(注) シェア：(JA全農あおもり販売額÷県産出額)×100